



大会概要

2024年 SUPER GTシリーズ 第7戦

大会名称

2024 AUTOBACS SUPER GT Round7 AUTOPOLIS GT 3Hours RACE

開催日時

10月19日 土曜 (予選 悪天候の為キャンセル) 10月20日 日曜 (決勝)

開催サーキット

オートポリス インターナショナル レーシングコース (1周: 4.674km)

所在地: 大分県日田市上津江町上野田1112-8

同時開催レース

FIA-F4選手権シリーズ第11戦・第12戦

主催

株式会社GTアソシエーション(GTA) / オートポリス倶楽部(APC) / 株式会社オートポリス

公認

国際自動車連盟 (FIA)

一般社団法人 日本自動車連盟 (JAF)

認定

株式会社GTアソシエーション (GTA)

後援

経済産業省 / 国土交通省 / 国土交通省九州運輸局 / 自由民主党モータースポーツ振興議員連盟 / 大分県 / 熊本県 / 日田市 / 竹田市 / 菊池市 / 阿蘇市 / 別府市 / 由布市 / 大津町 / 日田市観光協会 / 竹田市観光ツーリズム協会 / 菊池観光協会 / 阿蘇市観光協会 / 肥後おおづ観光協会 / 別府市観光協会 / 由布市まちづくり観光局 / 大分市観光協会



◆ 参戦体制

■ ドライバー



片山 義章
YOSHIAKI KATAYAMA

生年月日 1993年11月13日
出身地 愛知県
身長 168cm
体重 69.3kg
血液型 RH+O



ロベルト メリ ムンタン
ROBERTO MERHI MUNTAN

生年月日 1991年3月22日
出身地 スペイン
身長 178cm
体重 70kg
血液型 RH+O

■ 代表

古場 博之

■ 監督

小倉 啓悟

■ スタッフ

チーフエンジニア
チーフメカニック

Mattia Oselladore
片岡 恵人

■ スポンサー

アスカ株式会社

朝日金属株式会社

C I S株式会社

株式会社安藤・間

ザーレン・コーポレーション株式会社

城東電機株式会社

T O N E株式会社

ウエスタンデジタル合同会社

D O B O Tジャパン株式会社

株式会社リブレ

ニチアス株式会社

見田工作株式会社

エバー株式会社

愛知電線株式会社

コスモ開発株式会社

笹原金型株式会社

岡田金属株式会社

有限会社大和工業

株式会社ジョイフル設備

有限会社ます徳

エクセルフィルム株式会社

アクセル有限会社

M I D T O W N B B Q

OIRC

カトー機械株式会社

ARMS株式会社

青山エレベーター株式会社

RAIDEN

株式会社デジテックエイチピー

株式会社ジョイフル設備

株式会社マイティミズタニ

株式会社アクトライズ

医療法人社団ヒロデンタルクリニック

高新自動車学校

株式会社アート買取協会

◆ 予 選

天候 熊り

コース状況 ウェットからドライ

気温 12℃ (GT300クラス開始時)

路面温度 13℃ (GT300クラス開始時)

予選開始 8時00分 (GT300クラス開始時刻)



VELOREX (Team LeMans)は、昨年に引き続き、SUPER GT GT300クラスに参戦する。4年目となる今シーズンは、マシンをAudi R8 LMSからFERRARI 296 GT3に変更し、マシン名を「UNI-ROBO BLUEGRASS FERRARI」とした。一方、ドライバーは昨年同様、第1ドライバーに片山義章、第2ドライバーにロベルト・メリ・ムンタンを起用。チーム体制も継続し、2023シーズンを上回る活躍を目指す。タイヤは、これまでどおりヨコハマタイヤを装着する。

今シーズンのSUPER GTは更に予選方式が変更され、Q1、Q2のタイム合算方式は変わらないものの、GT300クラスの場合、Q1は全車参加で20分間のQ1を行ない、上位14台がQ2 Upper 14th)、15位以下がQ2 Lower 15thに分かれてそれぞれ10分間のQ2に挑む。予選順位はQ1、Q2の合算タイムで決まり、Upper14thでQ2を走行したグループの中からポールポジションが決まる。Lower 15thでQ2を走行したチームが合算タイムで最速であっても15番手スタートとなる。雨天の場合、スターティンググリッドはQ2を走行したドライバーのタイムで決められる。なおルール変更によりQ1、Q2でそれぞれ新品タイヤが使用可能となり、レースウィークを通じての使用可能タイヤセット数の制限があるため、昨シーズンにも増してタイヤのマネージメントが重要になる。

(※今大会は悪天候で土曜日の公式練習、予選がキャンセルされた為、変則的に日曜日の朝、GT300、GT500それぞれ30分間の予選を行ない、ベストタイムで予選順位を決定)

#6 UNI-ROBO BLUEGRASS FERRARI 出走グリッド：1位

(公式予選ベストタイム1分46秒524：ロベルト選手／片山選手：出走せず)

土曜日に予定されていた公式練習と予選が悪天候のためキャンセルされ、SUPER GT第7戦は日曜日の午前8時から30分間の予選を行ない、午後3時レースの決勝が行われるという変則的スケジュールとなった。予選開始時刻になってもまだ霧が残り、路面がウェット状態でスタートしたが、次第に路面が乾きはじめ、セッション終盤には各車スリックタイヤでのアタック合戦となった。

気温12℃、路面温度13℃というコンディションの中、UNI-ROBO BLUEGRASS FERRARIを駆るロベルト選手は、ライバル同様、まずはウェットタイヤを装着してコースイン。マシンのバランスを確認すると早めのタイミングでスリックタイヤに交換し、ゆっくりとタイヤを温めながら周回を重ね、最初のアタックに突入。セクター2で区間全体トップタイムをマークするもののアクシデント発生により赤旗中断。気を取り直して残り6分でのセッション再開とともに果敢なアタックを開始。一旦は暫定トップタイムをマークするもののライバルに逆転され、最後の最後、チェッカー目前のラストアタックで再度逆転し、VELOREXとして初のポールポジションを獲得した。

◆ 決 勝

天候 晴れ

コース状況 ドライ

気温 14℃ (スタート時)

路面温度 21℃ (スタート時)

決勝レース開始 13時20分
(正式スタート時刻 13時26分37秒)予定走行時間 3時間
(正式フィニッシュ時刻 16時28分06秒)

#6 UNI-ROBO BLUEGRASS FERRARI (片山&ロベルト選手)

決勝結果：8位 (所要時間：88週消化/ベストラップ：1分46秒931=片山選手)

第6戦スポーツランドSUGO大会で様々なアクシデントに見舞われ、悔しい結果となったVELOREXとUNI-ROBO BLUEGRASS FERRARIは、この第7戦に向けて徹底的なデータ解析を行ない、ドライバー、チームが一体となって最高の結果を残すべく万全の体制を整えてレースに臨んだ。しかし土曜日はあいにくの天候ですべての走行がキャンセルとなり、日曜日の予選はまさに一発勝負の予選となった。つまり持ちこみのセットアップの成否がすべてという状況だった。その状況下で見事にポールポジションを獲得したことに自信を持ったチームは、決勝に向けて40分間のウォームアップ走行で最後の確認作業に余念がなかった。しかし小倉啓悟監督は、予想外に低い気温と路面温度、そしてオートポリス特融のコースコンディションに一抹の不安を抱いていた。決勝スタートは13時20分。交通機動隊を先導としたパレードラップも華々しく披露され、その後セーフティカー先導のもとに3時間のレースが無事スタートした。

ポールポジションからスタートした片山選手は、セーフティカースタートでタイヤを温めながら集中力を高め、そのままトップを死守するつもりであったにもかかわらず、1周目を終えた段階で4位までドロップするという予想すらしない厳しい展開を強いられた。その後もタイヤのピックアップに苦しめられ、次第にポジションを落としてしまう。途中24周目にアクシデントのためFCYからセーフティカーが出された段階で11番手。30周を消化してロベルト選手に交代した時には15番手までドロップしていた。

ロベルト選手も同様にタイヤのピックアップに苦しめられたが、セーフティカーが導入されたタイミングと給油のタイミングが味方をし、レース終盤には2位までポジションを戻すことに成功。このまま表彰台を狙えるかと思っただが、ライバルに比べて早めに交換したタイヤが限界を迎えており、終盤に3位を走行中、ピットの判断で再度タイヤ交換に入る賭けに出た。

しかしこの賭けが裏目に出たのは、ピットアウトしてタイヤが温まった頃に再びアクシデントが発生し、セーフティカーが導入されてしまったのだ。残り周回で新品タイヤの恩恵を受けてポジションアップする戦略は外れ、そのままセーフティカーランがチェッカーまで続き、UNI-ROBO BLUEGRASS FERRARIは悔しい8位でチェッカーを受けた。

片山 義章 選手のコメント

公式予選でロベルト選手がチームにとって初のポールポジションを獲得してくれたことで、少し目頭が熱くなりました。自分も予選でグループトップは獲得したことがありましたが、全体でのポールポジションは初めてのことで、チームが一丸となって頑張った成果があったと思います。決勝前にウォームアップ走行があり、そこで決勝に向けての最後のセットアップを確認したのですが、タイヤのピックアップが酷く、数周すると全然グリップが得られなくなるのが不安でした。決勝がもう少し暖かくなってくれたら良かったのですが、それも叶わず、予想どおりの苦しい展開となってしまいました。

後半スティントを担当したロベルト選手もかなり厳しい状況だったと思いますが、セーフティカーの出されたタイミングと我々の給油、タイヤ交換のタイミングがばっちり、2番手までリカバーすることができました。でもそこまででしたね。本当に悔しいレース結果でしたが、学ぶべきことも多く、次のレースでは今回の悔しさをバネに優勝を狙って頑張りたいと思っています。

ロベルト・メリ・ムンタン 選手のコメント

公式予選でコースインした段階で、マシンの持ち込みセットアップが完璧だと確信しました。濡れた路面をスリックタイヤで走るような難しいコンディションには自信があったので、前のマシンに引っかけられないような間隔を空けることと、タイヤを適正温度に温めることに集中して予選終盤の攻撃に賭けました。暫定トップをマークした直後に逆転されましたが、その時のラップはまだ引かかっていたタイムだったので、最後の攻撃に集中しました。ポールポジションを獲得できたのは、本当にチーム全員の努力の結果です。心から感謝しています。

決勝レースはタイヤに苦しめられましたが、適切な判断でリカバーし、2位まで浮上したのはチームのおかげです。最後は運がなかったですね。新品タイヤに交換して最後までプッシュしたかったのですが、残念ながら表彰台は獲得できないままセーフティカーランの終了と共にチェッカーを受けました。今回のレースはチームの高いポテンシャルの片鱗を証明できたと思います。次こそ優勝目指して頑張ります。

監督コメント

予選でポールポジションを獲得できた時は、もちろん嬉しかったという気持ちもありましたが、正直、むしろホッとしたという気分でした。今シーズン、これまでいろいろありましたが、UNI-ROBO BLUEGRASS FERRARIの速さを証明できたことと、ロベルト選手の実力を発揮できるマシンが用意できたことに安堵した次第です。残念ながら決勝レースはタイヤに苦しめられたまま終わってしまいましたが、ふたりのドライバーの頑張り、順位以上に素晴らしい仕事をしてくれたと思っています。ポールポジションからスタートしただけに、せめて表彰台で終わりたいとは思いましたが、これもレースです。そんな中でもチームとドライバーの頑張り、レース終盤には2番手までリカバーできたことも、新たな自信に繋がりました。最後のピットストップは、ドライバーのタイム的にもタイヤが限界だったと思いますし、そのまま頑張って守り続けるよりは、リスクはありますが、新品タイヤに交換してガンガン追いつけるという攻めの戦略が我々には合っていたと考えました。しかし運悪くセーフティカーが出されて、レースはそのまま終わってしまい残念です。今回のレースは良い部分も悪い部分も、学ぶべきところが多く、非常に価値あるレースだったと思います。速さは証明できたと思いますし、残り2戦、モテギと鈴鹿に向けて、より一層の努力を積み重ねて、最後には必ずや有終の美を飾りたいと思っています。皆さん、今回も応援ありがとうございました。



WestCove

BLUEGRASS

UNI-ROBO

DOBOT

zahren

TONE

OIRC



KOHSHIN DRIVING SCHOOL
SAFE DRIVE
高新自動車学校

EVER CORPORATION



ニチアス

METAL RECOVERY
OKADA KINZOKU

AOYAMA
ELEVATOR

カトー機械株式会社

Digi-Tec
INTECNO

MAITY
MATTY MOLTAN ENGINEERING SYSTEM

MIDTOWN BBQ
www.midtown-bbq.com

Western Digital.

The
CELLAR
G O T E M B A

ESTATE SALE
SUPREMACY

JOTO DIRECT

見田工作

ASAHI 朝日金属株式会社

RiBLE

H & A
Human & ARMS

SASAHARA

DALWA

XPEL
J A P A N

ActRizz

英摩法人社団
ヒロ デンタル クリニック

安藤ハザマ
HAZAMA ANDO CORPORATION

AEW 愛知電線

UT Co.,Ltd.

アート
買取協会

Sponsor introduction

VELOREX
Fueled by Ambition